



アル
リニューアル
リオープン

高田本山だより

高田会館の運営再開

総務 藤森 邦夫

高田会館（旧高田青少年会館）の改修工事がこの七月三十日に完了し、八月中は開業準備を行い、九月九日から営業を開始する予定です。

青少年会館は昭和四十八年（一九七三）に親鸞聖人生誕八百年・立教開宗七百五十年慶讃法要の記念事業として建築されました。しかし、すでに三十数年経過し、老朽化が進み、耐震性能の低下も心配されており、再建が計画されていました。折しも平成十八年に公益財団法人に関する法律が改正され、財団法人であった十万人講財団は平成二十三年三月三十一日に、青少年会館を運営していた財団法人高田青少年育成会も平成二十四年五月三十一日に解散いたし

ました。従つて、青少年会館も運営を終了しました。その後の会館をどうするかについて、紹介曲折はありましたが、最終的に十万人講財団の基本財産が本山に移管され、その資金で本山が高田会館を再建築することになりました。

まず、親鸞聖人七百五十回忌報恩大法会を記念して、平成二十四年三月高田会館ホールが再建されました。このホールは世界的に有名な内藤恒方氏の設計によるものであり、茶所と相似の建物形状として並んで建てられ、蓮池を望む優美な姿をしています。そして、山門前の道路に面して正面玄関があり、会館とホールのガラス戸を通して、本山内が見えるように造られています。これは、本山と寺内町

会館は本山の所有物ですが、管理・運営の業務は寺内町の方々の出資による株式会社「あかり屋」に委託することにし、会館運営に関しては、本山と「あかり屋」とが密接に協議して行います。

改修された会館に泊まり、晨朝にお参りし、数多くの文化財建築物のある境内を散策し、穏やかな時を持てる専修寺にご参詣ください。

ました。従つて、青少年会館も運営を終了しました。その後の会館をどうするかについて、紹介曲折はありましたが、最終的に十万人講財団の基本財産が本山に移管され、その資金で本山が高田会館を再建築することになりました。

階段は段差が小さく利用し易くなり、またエレベーターも設置されました。一階はレストラン、ならびに風呂があり、風呂は銭湯形式で宿泊者以外でも使用できます。なお、ホールへの入り口は従来通りです。

代となつてくるでしょう。御遠忌後、高田会館を大改修し新会館を造る計画が進められ、完成した新会館は旧高田青少年会館と様相が一変しました。旧会館の三階を除去し二階建ての建物にして、建物容積を減らすことにより、使用効率を上げる。また、二階建てにすることにより、耐震性能を向上し易い。そして、和風屋根にすることにより、境内や一身田の景観に合う。二階には宿泊部屋十室があり、最大宿泊人数は約四十六人とする。



発行所
真宗高田派宗務院
三重県津市一身田町2819
電話 059-232-4171
FAX 059-232-1414
HP www.senjuji.or.jp



発行部数 35,000部



いよいよ迫る 法主伝灯式

高田の法脈



○平成25年10月27日（日）
伝灯式 午前10時より御影堂にて
御参廟 午前11時30分より

第二十四世 常磐井鸞猷法主 退位

高田派の法主位は法脈相承によつて受け継がれてきました。これは血統・血脉を良しとせずということではなく、親鸞聖人のお説き下さいました法の灯を正しく伝承していくことこそ、お念佛で繋がれた眞の相承であるとの立場です。

親鸞聖人のみ教えとは、お念佛のみ教えであり、南無阿弥陀佛にお仕えする心のみ教えであります。

高田婦人要典に次の様な記述がありました。

“高田の法主はお仕えする心の具現者であり、お仕えする者の代表者であります。”

一般寺院にあつては、住職・坊守が、家庭にあつてはその家の主人・奥方がその立場に立たねばなりません。伝灯式が執り行われること心よりお慶び申し上げ、私たちもお念佛相続麗しくいただきかなればいけませんね。

法嗣 常磐井慈祥
専修寺伝灯第二十五世の御法主位を相承

◆高田派御歴代

開山	親鸞聖人
第二世	真佛上人
第三世	顯智上人
第四世	專空上人
第五世	空佛上人
第六世	定専上人
第七世	順証上人
第八世	定順上人
第九世	定顕上人
第一〇世	真慧上人
第一一世	應真人上人
第一二世	堯慧上人
第一三世	堯真上人
第一四世	堯秀上人
第一五世	堯朝上人
第一六世	堯円上人
第一七世	円猷上人
第一八世	円超上人
第一九世	円祥上人
第二〇世	円禧上人
第二一世	堯潤上人
第二二世	堯禪上人
第二三世	堯祺上人
第二四世	堯祺法主

これからの中興・専修寺諸法会

◆讚佛会 九月二十日～二十六日

お日中 午前十一時三十分より

御親教 二十三日の日中勤行後

◆資堂講法会 十月一日～三日

お日中 午前十一時三十分より

◆納骨堂法会 十月三～四日

御参廟・納骨堂勤行

午前十時三十分より
御影堂勤行 午前十一時三十分より

◆秋法会 十一月五日～十日

お日中 午前十一時三十分より

◆中興上人御正当 十二月八日～十日

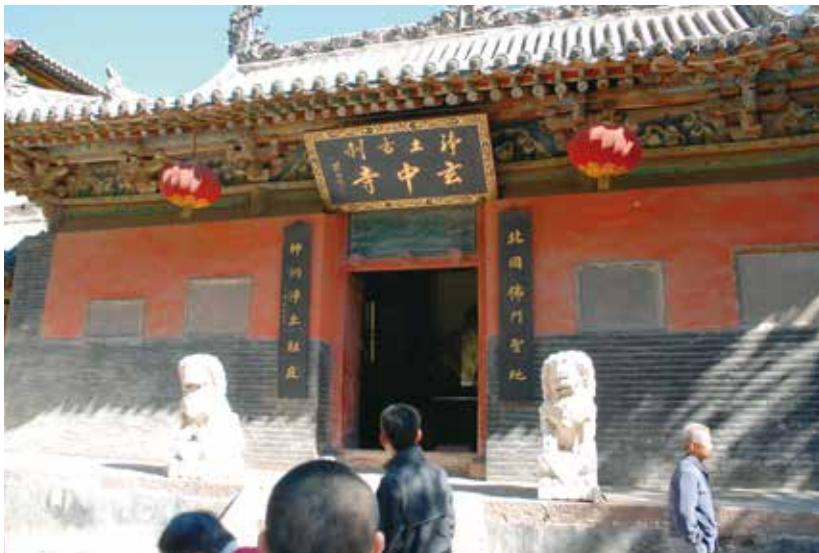
高田派中興・専修寺第十世真慧上人
お日中

八日 正午より

九・十日 午前十一時三十分より

お誘いあわせのうえ
ご参詣ください

雲鸞大師（下）



雲鸞大師が浄土教の研鑽を積んだ石壁の玄中寺(中国 山西省)

親鸞聖人は『淨土高僧和讃』（**雲鸞大師**）の二十首で、罪障とは罪咎のことです。罪咎と言つても人を危めたり物を盗んだりすることができません。私たちが持つている煩惱の禍にとではあります。私たちが本願に背いていることです。功德とは善行のことです。功德とは善行の結果として与えられるさとりのことであります。「罪障」とはそのまま功德の本体となる」ということで、親鸞聖人は『正信偈』に「不斷煩惱得涅槃」と示されました。

雲鸞大師は、お淨土に生まれたら必ず仏に定まるなまかまになると言わされたのですが、親鸞聖人は、お淨土に生まれずともこの娑婆に生まれて、阿弥陀如来のご本願をいただいたそのときに煩惱の氷が融けて、それがそのままさとりの水となる現生正定聚のご法義を明らかにされていますが、その一節に「あらゆる煩惱を煩惱の塊として生きていそなえた凡る私たちは、さとりの世界

目に罪障功德の体となるこおりとみづのごとくにござりおおきにみづおおしさわりおおきに徳おおしと讀嘆されています。

す。罪咎とは罪咎のことです。罪咎と言つても人を危めたり物を盗んだりすることができません。私たちが持つている煩惱の禍にとではあります。私たちが本願に背いていることです。功德とは善行の結果として与えられるさとりの世界に入るから転用されたものです。親鸞聖人は『正信偈』に「不斷煩惱得涅槃」と示されました。

多くの庶民が漢文を読めなかつた当時、この煩惱を水に、さとりの世界を水にたとえて、「不斷煩惱得涅槃」をご教化なされた親鸞聖人のお心遣いを偲びながらこのご和讃を唱えたいものです。



(教学院第三部会)

神通の如意 永田文昌堂 電話番号 000-075-033-011-496-906-335-611 600-8342 京都市下京区花屋町西洞院院西入 觀無量寿經講說19 定価2520円税込	香光莊嚴 高田慈昭著 ふとした対話／遠くて近きは／日本人の宗教觀念／日本人と仏教／仏教になぜ宗派があるのか／後生たすかるということ／尋常に非ず臨終に非ずほか 定価2100円税込	妙好人と石見文化 朝枝善照著作集第五卷 直林不退著 定価10500円税込
---	--	--

リレー法話

合掌のこころ

伊藤 泰臣

合掌はアンジャリといつて、インド・タイ・ベトナム・カンボジアの方面で古くから行なわれていた礼法といいます。インドでは「お早うございま

す。」「有難うございま

す。」「さようなら。」はすべ

て合掌しながら、ナマスティといいます。また、カンボジアやチベット・タイ国でも合掌

か。

合掌する事は、み仏の心に近づく手がかりなのです。この仏恩報謝の合掌は、「おかげさま」によって育まれるもののです。

右仏、左衆生（私達）と
拝む手の内ぞゆかしき南無（おがくちのこゑ）
(お念佛)の一聲

合掌とは、み仏と私達が一體となつた姿であり、阿弥陀如来様のお涙の暖かい慈悲のふところに抱かれた有難く尊い姿です。

私達の合掌は、阿弥陀如來様への“おかげさま”、“有難うござります”的仏恩報謝のお

礼の心、姿であります。

仏様への合掌は尊い深いご信心となり、両親への合掌は暖かい孝養の心となり、お互に合掌すれば世の中更に明るく、平和安穏となつて、みな幸せになるでしょう。

（福井県坂井市 常楽寺住職）

合掌とは単に両手を物理的に合わせることではありません。相手を敬い信頼する心がなければならないでしょうし、私たちが神仏に一心に懇願し祈る姿であります。また、み合わせることにより、自分を仏に帰命した仏恩報謝の尊い姿であります。また、手を内省し罪深いわが身に気づかせることになります。つまり



世の中安穩なれ 仏法ひろまれ

社寺建造物彩色、障壁画、仏画、絵伝、頂相画、天井画などの制作と修復・復元承ります。その他石工、木地、漆、箔押、鈎金具など、ご相談下さい。

ものづくりの観点から、あらゆる職種の本物の職人による法物制作のお手伝いをします。

絵所
〒514-0114 三重県津市一身田町2819
TEL:059-232-4171 FAX:059-232-1414
(本山宗務院内 絵所)

絵所頭
御本山絵所
安川如風

京仏壇京仏具・ご本堂内装 お仏具ご修復・お納骨壇



高田本山御用達

京仏具 小堀

<http://www.kobori.co.jp/>

本店／京都市下京区烏丸通正面に上る ☎(075)341-4121(代)
東京店・練馬店・福岡店・札幌店・小堀京仏具工房

無料進呈！お役に立てて下さい

◆成功談と失敗談に学ぶ 新築・改築のノウハウ「100のヒント」
お申し込みはこちらから ☎(本店) 0120-27-9595 (受付時間9:00~18:00)

高田本山御用達
三重県仏教會御推薦



高級御影石専門店

御影石材株

(石に御用の方は) ☎0120-142540
本店 〒514-2241-1700(代)

高田本山御用達
全国優良石材店、認定店

創業110余年

株式会社 STONES

石仙 (旧(有)山本石材店)

☎0120-67-4114
四日市市近鉄阿倉川駅前 ☎059-331-4114

高田本山御用達

井筒法衣店

社長 楠田潤

京都市下京区塩川通新花屋町角（西本願寺前）
(〒600-8503)

TELフリーダイヤル 0120-075-720
FAXフリーダイヤル 0120-075-490

緑と共に75年

三重県知事免許認可
(一級造園技能士) 造園・庭園管理

山本造園

代表 山本 進一郎

津市栗真小川町869-77

TEL 059-232-7453

FAX 059-232-7453

ご和讃のお話

北畠
大道

たいというのが心情であり、
相手をとがめる事はたやす
いが、自分の非を認める事
はむつかしい”
というのが本質だと感じま
す。

もしも自分が相手に対し

て紛糾し罵倒している姿を
鏡に映されたらどうでしょ
うか？まったくお恥ずかし
い姿でしようし、変な汗も
流れることでしよう。その

鏡にはきっと鬼が映つてい
ます。その鏡に映っている

姿こそが真実の姿です。そ

れは、自分の中にある鬼の

心を見せられるということ

です。人はそこまでされな
いと懺悔の心は起こらざ自

分を悔いる事もないのです。

誰であっても自分にとつて

都合の悪いものは排除した

い、しかし逆に都合の良い

ものは求めて止まない。こ

れはまさに、”鬼は外
内”の精神です。逆に”鬼は

受け取らせていただきま
した。

お与え様の人生を他の人と
共に喜びます。このように
自分の内なる鬼を認め告白
し、その心を縁として、親
鸞聖人のお示しくださった
眞実の教えに心を傾け続け
ていける人こそが「眞心徹
到するひと」と言えるので
はないでしょうか。

「眞心徹到」とは、完成さ
れた眞実の信心と解釈され
ます。眞実の信心は今日明
日に出来上がるものではあ
りません。日々の生活を送
る中でその時々の気づきに

よって眞心徹到へと向かっ
ていくしかない。自分の腹

におさまっていくまで幾度

も仏法を聞き続けなければ

ならないのです。自分の失
敗や過ちを懺悔していく道

よりも、「懺悔を機縁とし

て真心徹到の境地にむかい
なさい。」と親鸞聖人が私

におつしやっているのだと

受け取らせていただきま
した。



ホーオーが目印！

六代目 (株)ぬし与仏壇店

桑名本店・四日市店・蟹江店・桑名メモリアルパーク

（意訳）
如來の眞実心が骨身に沁
みている人は、金剛のよう
な信心を得た人なのだから、
わが身の罪惡を厳しく悔い
改める三種の自力の聖者に
も等しいと、善導大師は
おつしやつて下さる。

このご和讃に挙げられて
いる「三品の懺悔」とは、
上品の懺悔
全身の毛穴から血の汗を
流し、眼から血の涙を流
し懺悔す

下品の懺悔
全身の毛穴から熱い汗を
流し、眼から熱い涙を流
し懺悔す

と、善導大師は『往生礼
讃』の中でおつしやつてい
ます。

懺悔には三種類あり、し
かも毛穴と眼から血を流す
ほどの懺悔と示されていま
す。なにか壯絶なものを感じ
ますが、それだけ己の罪
を悔いる行為は難しいとい
う事なのでしょう。人は誰
しも常に自分が正しくあり
雯いことも受け入れます。
そして幸福を外に分け与え、

（鈴鹿市 称名寺住職）

御本山御用達

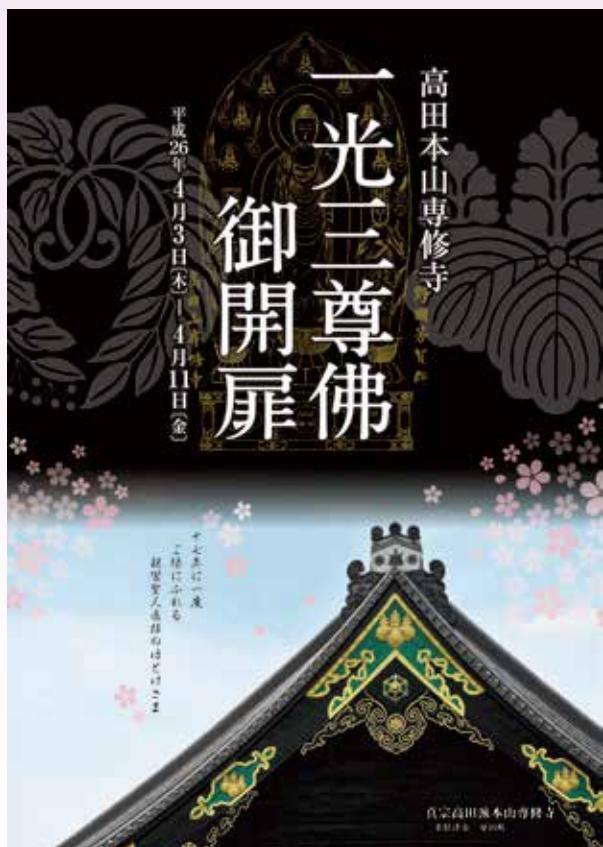
鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入（中央局区内）
電話 (075)371-0854・8181~2番
FAX (075)344-2701番
振替口座・01070-3-972番 郵便番号600-8344

特集

一光三尊佛御開扉

十七年に一度のご勝縁



【一光三尊佛御開扉日程】

- 平成二十六年四月三日から十一日
- 慶讚法会 四月三日～五日
特別講演、宝物展等
 - 春千部法会 四月六日～十一日
 - 十万人講法会 四月九日～十日
 - 戦没者追弔法会 四月十一日
- 一光三尊佛を御影堂宮殿に安置して執り行います。

一光三尊佛の由来

のご本尊は、この一光三尊佛のみであります。

一光三尊佛は、一つの光背に阿弥陀如来を中心とし、觀音・勢至の両菩薩が脇侍仏としておさめられています。西暦538年に仏教が伝来したことになっていますが、百濟（朝鮮半島）の聖明王が日本に初めて仏像と経論を献じました。伝説によるとこのときの仏像が

人が寺基を一身田に移されて以来永く秘仏となりました。このため享保14年（1729）に第十七世円猷上人が、各地のお同行にも尊像直拝をとのお心から、17年に1度出世帳を行うことを定められました。

平成26年4月、この尊像を津市一身田の本山専修寺にお迎えし、第19回されています。それからおよそ六百年後、親鸞聖人が高田の地に建立された道場に、夢のお告げによつて信濃国の善光寺からその一光三尊佛の一軀

が分身の像をお迎えされました。聖人は、毎日この尊像を礼拝され、念佛弘法に精進されました。今

日においては、聖人直拝

一光三尊佛の御開扉に合わせお寺単位で御懇志をお願いいたしております。

何とぞよろしくお願ひ

御懇志のお願い

申し上げます。
なお、志納の方には後日お扱い(記念品)をお渡しさせていただきます。

稚児練り

(金)、5日(土)の2日間稚児行列を行います。

用度講前を出発し一御

田神社前、仲の町を経由

一光三尊佛を皆様のお寺の本堂で間近に礼拝していただくことができます。

田神社前、仲の町を経由し山門から本山へ入り、御影堂で一光三尊佛に参拝します。詳細は改めてお知らせします。

平成28年3月までのござ滞在期間に出開帳を行います。

一人でも多くの檀信徒様にご縁を結んでいただくため、必要経費を明示いたしております。出開帳をお受けになるご寺院様は「一光三尊佛出開帳申請書」を提出願います。

「お迎え団参」
参加者募集

一光三尊佛の御開扉に合わせ、栃木の本寺へお迎えに上がる団体参拝旅行です。

平成26年3月29日(土)

から31日(月)の2泊3日のバスの旅で、初日は東

事務所で日程を調整し付いたします。

日目は親鸞聖人の御旧跡

京都内観光のあと幕張の

ホテルに泊まります。二

であります稻田の西念寺をたずねたあと本寺専修寺の御開扉法会にお参りし、鬼怒川温泉に泊まります。三日目は日光東照宮を見学し本山へ帰ります。

伊勢路の御休憩

一光三尊佛は本寺での間稚児行列を行います。

宮を見学し本山へ帰ります。

31日に本寺を出発し一路

募集中員は400名、旅

行代金は48,000円。

この団参に参加を希望の

方は専用の申込書に記入

の上申込金10,000円

を添え、事務所あてにお

申し込み下さい。定員に

なり次第締め切ります。

古屋別院でお泊まりになり、翌4月1日別院をご

出輿、桑名市の常信寺、

四日市市の善教寺・崇顕

寺・興正寺・常超院にお

立ち寄りになり鈴鹿市の

神戸別院でお泊まりにな

ります。そして翌4月2

日に青龍寺・専照寺・最

勝寺、津市大里の養護老

人ホームにお立ち寄りに

なり慈光院跡地から本山

関係者をはじめ楽人、稚

児を交えた行列を組んで

本山御影堂へ到着する予

定です。

お申込み先

〒514-0114
津市一身田町2819
真宗高田派 一光三尊佛御開扉事務所
TEL 059-232-4177



祝・一光三尊佛御開扉

高田本山御用達 (観光庁長官登録旅行業第2号)

 日本旅行 津支店
NIPPON TRAVEL AGENCY CO.,LTD.

〒514-0009 津市羽所町375 津駅東口すぐ
Tel : 059-226-5571 Fax : 059-228-7731
E-mail:tsu_office@nta.co.jp

これからの本山諸行事

三尊さまのおはなし 夢の予言(下)

(前号よりつづく)

◆第五十七回檀信徒研修会 十月未定
午前九時から御影堂前にて受付
全国の高田派お同行を対象にした研修会です。午前中は講師の法話をご聴聞いただき、お昼からは班別研修会を行います。日頃からの質問・疑問にお答えいたします。

◆教学院研究発表大会 十月三十一日

午前十時開会

高田派の僧侶が日頃の研究の成果を発表します。又午後には特別講演も行われます。

講師 赤川 一博氏

「光三尊佛について」

一般聴講歓迎(聴講無料)

◆坊守婦人合同研修会 十月下旬
今年も一泊二日の研修会を計画中です。研修内容は法式作法や法話、講演を予定していますお申し込みは宗務院教学課まで。

平成二十六年 本寺から本山へ
親鸞聖人直拝のほとけさま
一光三尊佛御開扉

本寺 慶讃法会
三月 二十八・二十九・三十日

本山 慶讃法会
四月 三四・五日

寺院名



そこで、ご開帳の十四日を待ちかねて、とるものも取りあえず参拝してみると、果して三尊さまのお姿は夢に見た気高いお姿と寸分違いがありません。あまりのうれしさに涙を流して家に帰り、夫にこの事を告げると、半右衛門もびっくりしてすぐに参詣しましたが、その尊さは肝に銘じただだ喜びの涙にくれるのでした。

それから半右衛門は、在所の大塚村の恵日寺の住僧を尋ねてわけを話し、三尊さまへのせめてもの志として

ローソクなりとも奉納したいと相談すると、住僧も大変おどろいて、「これはこの末世にまれな話です。仏さまに差し上げるものは清らかな心

が第一で、物をえらぶわけではないが、昔から香・花・灯明というから、ローソクの献上はまことに結構なこと、ぜひ

そうなさい。」

とすすめましたので、半右衛門は大いに喜んで承知しました。しかし、公私の大切な用事が重なつて暇がない、たちまち一二三日が過ぎてしましました。

変な夢を見たものだと気になつて、早速、大塚村に兄を訪ねてみると、半右衛門はハタと手を拍つて、「実は、その志を持ちながらまだ実行できずにいたのだが、これは妻子にさえまだ話しておらず、自分の心だけを考えていることなのに、早くも仏さまのお心に通つたのか。」

と、しばらくは感動の涙にくれるのでした。そこでその日のうちに志を果たし、それ以後毎日参詣して、またとない篤信の人になったのでした。

真宗高田派本山 専修寺

三重県津市一身田町2819 TEL 059-232-4171

<http://www.senjuji.or.jp/>

高田本山

検索



ところで、大塚村の隣に戸島村といふ村があります。その村の長の伝兵衛の奥さんは半右衛門の妹でしたが、ある晩のこと、兄の半右衛門が三尊さまに万本のお灯明を献上したというので、大勢の人が先を争つて参詣する夢を見ました。自分もその後について行つてみると万本のローソクのお堂のなかはあかあかと照らし出されて、実際に見事な美しさです。何とも言えずありがたくて、日頃は不信心な兄がにわかにこんな立派なことをなさるのは、きっとこの生き仏さまがお導きくださったのであろうと感動したところで目がさめました。

う村があります。その村の長の伝兵衛の奥さんは半右衛門の妹でしたが、ある晩のこと、兄の半右衛門が三尊さまに万本のお灯明を献上したというので、大勢の人が先を争つて参詣する夢を見ました。自分もその後について行つてみると万本のローソクのお堂のなかはあかあかと照らし出されて、実際に見事な美しさです。何とも言えずありがたくて、日頃は不信心な兄がにわかにこんな立派なことをなさるのは、きっとこの生き仏さまがお導きくださったのであろうと感動したところで目がさめました。